

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290400124		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター都賀		
所在地	千葉県千葉市若葉区都賀4-10-18		
自己評価作成日	平成30年2月22日	評価結果市町村受理日	平成30年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOBA		
所在地	我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	平成30年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私たちの元気と笑顔が素敵なサービスの礎となるよね」を合言葉にして、職場環境の良さが自慢のグループホームです。チームワークが良いことが、元気、笑顔に繋がりと、その相乗効果により、入居者様との日々の生活に楽しさや穏やかさを提供できています。認知症の状態にある方の得意なこと、困難なことを十分に理解することで、自信を持っていただきながら、達成感を感じられる自立支援を実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR都賀駅から徒歩7分にあり、静かな住宅街に立地する2階建て2ユニットのグループホームである。管理者をはじめ比較的男性職員が多い。管理者が元気に人手不足の状態を補う努力や、入居者の求めるものを日常生活の中に見つけ出そうとする真摯な姿勢が職員にも十分に伝わっている様子が窺える。日常作業や買い物などを通して、利用者が外気に触れる機会を積極的に作る工夫を重ねている。アンケートで「父の出来ることがどんどん増え、驚くことが多いです」のコメントは、利用者自身の力を引き出そうとする職員の介護姿勢と実践の結果と受け止められる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしさを尊重し尊厳を保ちながら自立を促し、穏やかで喜びのある生活が送れるように支援していきます」を掲げ、朝礼や会議の際に唱和しています。	会社の研修体系がしっかりできていて、採用時研修をはじめステップアップの機会などで理念を学んでいる。週2~3回開かれる朝礼や会議では理念の共有にむけて唱和し、実践につなげようと努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の盆踊りに参加したり、地域の子供たちがホームに赴いて太鼓を披露して下さっています。また、こども110番の受入れやまた近所の保育園との交流も調整中です。	自治会に加入している。地元の盆踊りに利用者が参加しているほか、幼児から中学生などで構成されている太鼓の会が毎年ボランティアで演奏に来るなど、地域との交流が行われている。	保育園側が懸念する園児の個人情報取り扱いや感染症対策などの諸課題については、グループホーム連絡会で他のホームの実例について情報を得るなどし、交流の実現にむけて前進することに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出の際、こちらからご挨拶をすることで、地域の方たちに認知症の状態にある方への理解を深めています。また、ボランティアさんの輪も広がり活躍してくださっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1度開催し、地域包括やご家族多数の参加があります。活動報告や困っていることを報告することでさまざまなご意見を頂くことでサービスの向上に役立っています。	会議では毎回ホームの一般的な状況や事故などが報告されている。利用者家族や地域包括支援センター職員も毎回参加し、家族の参加人数も多い。転倒など生じた事故対応についても家族の意見を採り上げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	千葉市グループホーム連絡会に所属し、他施設との交流があります。また、千葉市ボランティア制度も積極的に受け入れています。	千葉市グループホーム連絡会を通しての連携や地域包括支援センターとの関わりの中で、市と連携をし協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を定期的に行い、身体拘束による弊害について学んでいます。また、身体拘束に至らないケアについての目標も定めています。	法人では年2回の学習が義務付けている。月1回の会議では法人からの連絡や研修報告を行っている。その中で認知症そのものを深く理解したケアを行うことを学び、身体拘束に至らないケアを目指している。玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を定期的に行っています。また、全スタッフにセルフストレスチェックも実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がいらっしゃいます。また、その手続きに必要な書類等、柔軟に対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居者、ご家族の不安や心配等を契約前より伺うことで、ご契約時にご理解、ご納得いただけるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会時には近況を報告しご要望を伺い、また、月1度、スタッフの直筆の手紙や写真を多用したホーム新聞をお届けし、新たにWEBでもホームのご様子をお伝えしています。年1度の顧客満足度調査も行っています。	運営推進会議への家族の参加も多く、利用者や家族の意見を受け止める機会となっている。法人は、サービス内容やスタッフに対する満足度や意見等を調査する「顧客満足度調査」を毎年1回実施し、意見の反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度以上の会議や面談の場において意見を募り、職場環境の向上に繋がるように努めています。	管理者は日常作業の中で職員の希望などを汲み上げている。不足しがちな外出支援を補いたいとする職員の提案から、ごみ出しや・近隣の散歩などを実施。希望する利用者へのパン食も導入されるなど反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時給者はキャリアアップ制度による昇給があり、社員登用制度もあります。また、年始には各スタッフに「今年目標」を掲げてもらうことでモチベーションを高めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種社内研修が充実しており、受講を促進しています。また、社外研修にも積極的に参加し、順次、千葉市実践者研修を受講しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市グループホーム連絡会に所属しています。また、地域交流会や勉強会にも参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前にケアマネジャーやリーダーが複数回ご挨拶をさせていただくことで、ご本人、ご家族との信頼関係を構築し、お互いが安心してご入居できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人に配慮し、デリケートな話しは、ご家族とホーム関係者のみで行うことで、望まれるご要望をひきだせるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議を開催し、その方の心身の状態や生活習慣を理解し、関わるスタッフが共有することで、ご本人の意向に添ったサービスを提供できるように周知しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の大部分において、得意なこと、困難なことをスタッフが把握することで、役割や作業を一緒に行い、生活を共にする関係を維持しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が外出行事と一緒に参加して下さったり、日々の食事や排泄の介助、散歩、衣替え等にもご家族の支援があります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅への短期外泊やお墓参り、ご旅行に行かれる際の関係機関への情報提供も行っていきます。また、毎朝、ご家族と電話でお話される方もいらっしゃいます。	盆踊りやお墓詣り、近くの店へ買い物に行くなど馴染みの行事や場との関係継続を支援している。昔取った杵柄で、役割意識を持ちホームの畑で夏季にはナスやトマトなど育てる方もあり、食卓に上っている。肥料など家族から寄贈されることが多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の相性もあるので、お互いが穏やかに過ごせるよう席次に配慮したり、同郷の方でコミュニケーションがとりやすいようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去が決まった際はケアマネジャーを中心に今後のご相談や受入れ機関への細かな情報提供を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人を把握するには雑談が大切であるとの共通認識のもと、一緒にお茶を飲める時間を作れるように努めています。	テレビがついていたらその画面から等、何気ない場から雑談に入りその中から思い等を掬い取っている。全員と話す機会が得られるよう心掛け、一日一回以上は笑顔が見られるようにとの思いを込めた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前のアセスメントが最重要と捉えています。ご家族の協力のもと可能な限りの情報収集を行っています。また、箸から家具まで馴染みの物をお持ちいただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録の精度を上げることで、一人一人の変化を共有することで、心身の状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的担当者会議の他に、スタッフがある入居者様をもっと深く掘り下げてアセスメントを行う機会を設け、また、その際には他スタッフの考えも持ち寄り、全員で考えるようにしています。	家族からは来訪時や電話等で日常的に意向等を伺っている。業務管理日誌や個人記録、健康チェック表等と担当者会議での職員の意見など総合的に検討し、介護計画を作成している。6か月毎及び体調変化時は、その都度モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有のツールとして、管理日誌や個人記録、健康チェック表等を用いて、一目で誰でも分かるような工夫をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問内容や訪問マッサージ、訪問看護の訪問があります。また、千葉市オムツ給付事業も利用しています。緊急を要する受診等にもホームとして柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方がホームの環境整備を手伝ってくださったり、また、毎日行くスーパーの店員さんや美容室の方が名前を覚えて下さったりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療が月2回あります。また、状態の変化がみられる際はすぐに連絡が取れる環境にあり、臨時の往診にも快く対応してくれます。	入居に際しホームの担当医への変更の同意を得ている。医師の月2回の往診と24Hオンコール、週1回の看護師・歯科医の訪問受け入れを行っている。眼科受診やペースメーカーの定期受診等は家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度の訪問があります。その際、介護スタッフからナースへの相談や、ナースから主治医への連携体制も整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は細かなサマリーを提供することで、ご本人の状態を把握していただいています。可能な限り面会し、食事やリハビリの様子を把握し早期にお戻りできるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約時に「重度化した場合の指針」を取り交わさせて頂いています。ご家族が最も心配される事柄であるため、十分に話し合い、ご納得していただき、可能な限りご希望に添えるようにしています。	入居時に「重度化した場合の指針」を説明し同意を得ている。ターミナル期には医師の診察と今後の指示を仰ぎ、また家族の協力を得て職員が限界近くまでの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にシュミレーションを行い、スタッフの連携を強化し、迅速に対応できる訓練を行っています。緊急対応は殆どのスタッフが経験しており、医療機関からも迅速な対応を評価して頂いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が中心となり年2回、日中、夜間帯を想定した消防避難訓練を実施しています。その後のミーティングでは積極的な意見交換ができています。	年2回、防火管理者が中心となり、日中における避難のほか、夜間時の一人対応を想定した自主訓練を行った。車イスで2階からの避難を職員も体験し、避難時の恐怖心を図ると共に、速やかに補充できるよう手配など計画的に進める工夫を検討している。	備蓄食料に消費期限の近づいたものもある。避難訓練時に皆で試食する、食材として活用する等々の有効利用を図ると共に、速やかに補充できるよう手配など計画的に進める工夫を検討している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	節度ある親しみやすい言葉で入居者様を不快に感じさせない工夫をしています。また、社内研修にて定期的に参加し、対人援助に必要な会話術や振舞い方について学び、その学びを共有しています。	信頼関係があり温か味があるもとは、その場に合った砕けた話し方をすることもあるが、行き過ぎないように配慮している。本人や家族の希望する愛称やニックネームでの呼び名の方も。社内規定で毎年、個人情報に関するテストが実施されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との会話を大切にしています。コーヒーの砂糖の量から、入浴までご本人様の思いや意向を取り入れ自己決定を促しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムへの配慮はすると共に、それぞれ休息や読書、TVでのスポーツ観戦など本人の生活感を優先しながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様、ご家族様の趣味、季節感に合わせて支援しています。衣料店が近隣にありますので入居者様と一緒に好みの物を買って行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒にお買い物に行った際などお食事やおやつについてメニューを伺ったりしています。野菜の下ごしらえから盛り付け、下膳、食器拭きなど能力に応じてお手伝いいただいております。	出来る方は野菜の下拵えや盛り付け・食器拭き等行っている。おせちやお節句等の行事食や誕生日祝い・リクエスト食等、食べる楽しみに加えて、おやつやX'masケーキのデコレーションする等、作る楽しみも支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて主治医より1日の水分量の目安の指示があり促しております。メニューカレンダーを作成し食材が偏らないよう努めます。本人の状態・意向で水分摂取が困難な方にはゼリーを提供するなど工夫しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	生活習慣を尊重しながら1日2回のケアを行っております。自身でのケアが不十分な方にはスタッフがお手伝いさせていただき良好な口内環境に努めております。定期的な訪問歯科による治療・指導も受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを把握し 日中は全入居者様トイレにて排泄が行えております。おむつやパットを必要とされる方にも状況に応じて数種類のサイズから身体的にも金銭的にも負担の少ないようケアをしております。	排泄のリズムを把握し声掛けして、日中は全員がトイレで排泄が行えている。積極的声掛け促しにより、尿意・便意が不明だった方も自然排便が確認できるようになって来た。身体的・金銭的等、状況に応じ数種類の中からパッド選びを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	積極的にトイレでの排泄を促してきたことで、それまで尿意・便意が不明で便秘が続いている方も自然排便が確認されるようになってきています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングはスタッフ主導になっておりますが週2～3回以上はお楽しみいただいております。1対1でのサービスとなりますので会話や歌を楽しんでいただけるよう工夫しております。	週2～3回の入浴支援をしている。好まない方には日時を替えて対応するなど工夫している。1対1のこの場をアセスメントの好機と捉え「ここが一番話を引っ張れる処」と本人の生活歴等を伺ったり一緒に歌うなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	可能な限り内服薬には頼らず日中生活において活動や休息をメリハリをもって行っていくことで夜間の安眠を促しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報書は各ユニットにて管理し内容を確認し、変更時には申し送りを行い情報共有に努めております。服薬にミスが生じないように、服薬時には2名でのチェックを行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯やゴミ捨て、掃除、調理などそれぞれの能力に合わせて リスクを恐れず生活全般において活躍していただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩やお買い物またゴミ捨てや新聞取りなど些細な場面でも外気に触れられるよう積極的に取り入れております。年2回は介護タクシーを利用して遠足へご家族の協力のもと行っております。	外に出ることに着目し、毎日の新聞取り・ごみ捨てなど些細なことでも出来ることからきっかけ作りをしている。日常的には外気浴を兼ねた散歩や買い物に出ている。家族の協力を得て、動物公園に遠足に行くなど、介護タクシーを利用した年2回の外出は毎年の恒例行事になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については基本的にはホーム管理となっております。ご本人様の希望や能力に応じてご家族様と相談の上紛失しても差し支えない小額をご本人様の所持、管理していただく場合もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙や年賀状のやりとりがあります。連絡先を把握され毎朝 電話連絡されている方もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に応じた装飾 書初めや絵馬など一緒に作成し楽しんでいただいております。温度や湿度、遮光はスタッフが管理しております。	居間や廊下には、書初めや絵馬など利用者の作品や季節の行事の飾り物などが掲示されている。出来ることはなるべく本人にやって頂くことを積極的に取り入れており、居間では野菜の下拵えなど行っていた。「出来ることがどんどん増え驚くことが多い」とのアンケートも寄せられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の突き当たりには少人数が使用できるソファセットが設置しております。静に過ごしたい時や入居者様同士の井戸端会議の際に利用されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や趣味に応じた品々や家族写真、アルバムをお持ちいただき 元々の生活感に近づけるよう工夫しております。	使い慣れた馴染みの家具や小物等持ち込み配置している。居室は趣味の作品や写真等飾ったり、仏壇が置かれるなど、各々好みの部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホームとして設計された建物の為、全館バリアフリーで手摺りや引き戸等安全に配慮されています。各居室に表札や視力の弱い方にも認識できるよう目印を設置するなど工夫しております。		